



この一冊

Vol. 127



当会会員 植木 琢 (61期) ●Taku Ueki

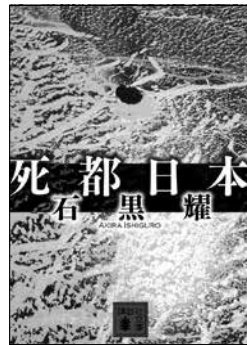
西暦20XX年1月6日、深夜の総選挙開票速報特別番組の放送中、宮崎県日南市沖でM7.2の地震が発生する。その後、奇妙な現象が起こった。翌日から、群発地震が発生し始めたのである。それも、震源地から西に90kmも離れた霧島火山帯で…。

本書は、火山噴火を題材とした災害小説である。日本は火山列島であり、世界の活火山の1割近くが日本に存在する。火山は、美しい景観など人々に多くの恵みを与えるが、時に噴火により大きな被害をもたらす。1991年の雲仙普賢岳の噴火（火砕流）、2014年の御嶽山の噴火等では多くの犠牲者を出した。

ただ、本書の題材となる火山噴火は、これらの噴火とは次元を異にする。その噴火とは「破局噴火」である。約9万年前に起きた阿蘇カルデラ破局噴火では、火砕流がほぼ九州全域を襲い、一部は海を越えて山口県にまで達した。裁判例でも、阿蘇の破局噴火で生じる火砕流の到達可能性を考慮して、愛媛県伊方原発の運転差止めを命じた広島高裁決定が記憶に新しい。

本書の内容に戻ろう。本書の主人公黒木伸夫は、宮崎県

『死都日本』



石黒 耀 著
講談社文庫
1,000円(税別)

にある大学の工学部に在籍する火山オタクの准教授である。主人公が平穏な日常を送っている中、政府は種々の観測データから、霧島火山帯の加久藤カルデラで破局噴火の兆候をとらえる。政府は、日本国民の生存を賭けた極秘計画「K作戦」を立案する。主人公も、とあることから「K作戦」のメンバーとなる。政府が計画の準備を進めている最中、突然、カタストロフは始まるのである。

その年の6月18日午後4時19分、霧島火山は韓国（からくに）岳で破局噴火の前兆である水蒸気爆発を起こす。そのとき、主人公は霧島火山研究所からの帰途にあった。破局噴火まで残された時間は数

日？それとも数時間？いや、そのような猶予はなかった。約10分後の午後4時28分、霧島火山は地下10kmから爆裂して消滅した。

破局噴火により、南九州のほぼ全域を火砕流が襲う。火砕流の先端の厚さは400mを超え、時速120kmで各地を蹂躪する。果たして主人公は生き残ることができるか。

火砕流、ラハール（土石流）、降灰等により、日本は人的、物的、経済的に壊滅的な被害を受ける。絶望的な状況の中、本書は一筋の復興の光を感じさせながら終わる。日本は現実にも多くの自然災害に見舞われ、その度に人々の懸命な努力により復興を成し遂げてきた。当会も、東日本大震災後、毎年、被災地の視察・支援旅行を企画し、復興の現場から多くを学んだ。自然災害は、時に人知を超えた試練をもたらす。しかし、生きようとする力は、必ずそれを乗り越えるものと信じていたい。

本書は、精緻な科学的洞察、圧倒的なスケール感と緊迫感から、一度読み始めたら止められない。準備書面の締切り前にはくれぐれも手を出さないよう、御忠告申し上げます。 ■